

# フレッシュマンコーナー

## 一念発起

宇部市医師会

かとう整形外科・リハビリテーション科

加藤 圭彦

山口大学医学部を昭和 63 年に卒業後、河合伸也 名誉教授が主宰しておられた山口大学医学部整形外科に入局いたしました。

入局後は、山口大学医学部附属病院、島根県立中央病院、山口労災病院、徳山中央病院、イェール大学、南陽病院、新南陽市民病院で整形外科全般を研修しました。平成 14 年から平成 24 年までの 10 年間は山口大学医学部附属病院に勤務し、河合名誉教授が退官された後は田口敏彦 教授の指導のもと、脊椎・脊髄外科を担当いたしました。

平成 24 年に山口大学を退職することを機会に医局を離れることを決意し、田口教授に許可をいただいて自分で就職先を探すことにいたしました。医局人事を離れ退局する身ですから、医局と関連のある病院に就職することは出来ません。関連病院はもちろん、非常勤として医局員が勤務している病院も候補から外して就職先を探しましたが、整形外科を募集している病院はなかなか見つかりません。退職時期が近づいてくる中、ようやく山口リハビリテーション病院に職を得ることが出来ました。

山口リハビリテーション病院では主に回復期リハビリテーション病棟を担当し、運動器だけでなく脳血管障害を中心とした頭部疾患の患者さん、神経内科領域疾患の患者さんなど、整形外科時代には経験したことのない領域の患者さんも担当いたしました。就職当時は戸惑いばかりでしたが、リハビリテーション医は患者さんやご家族と接する時間も長く、密度も濃く、充実感を持って仕事ができるようになりました。日本リハビリテーション学会専門医となり、これからは頑張り時と思っていた矢先、急遽、山口リハビリテーション病院を退職せざるを得なくなりました。その時点

では次の就職先は決まっていりませんでした。たまたま退職期限 3 週間前に医局に置いてあった雑誌で山口平成病院の医師募集を見つけ、平成 26 年に山口平成病院へ就職することが出来ました。宇部から玖珂へ 2 時間かけて通勤していましたが、これを継続することは現実的ではありません。悩んだ結果、一念発起し開業を決意しました。

決断してからは早期開院に向けて一直線に準備を進め、平成 27 年 11 月 11 日、宇部市東須恵（厚南地区）にかとう整形外科・リハビリテーション科を開院いたしました。開業の準備では、建築や物品の購入、スタッフの募集だけでなく、種々の必要な手続き・届出・申請など分からないことばかりでしたが、今まで関わったことが無かった多くの異業種の方々が、積極的に協力してくれました。27 年間勤務医として働き、特別なバックグラウンドも無い私は、経営者や開業医としてのノウハウは全く持ち合わせていません。「手探りで毎日の業務をこなしているうちに 1 年が過ぎた」というのが実感です。

「医院の基礎固めをした後に、しっかりしたシステム作りを」と考えていますが、いつまでたっても基礎固めが出来ません。次から次に問題が起こり、解決したと思ったら次の問題がまた起きる、の繰り返しです。しかし、院内で起きることは全て自分の責任であり、その点がクリアなのが開業医の良いところです。

大学病院、急性期病院、慢性期病院を経験し、開業にたどり着きました。上述したようにまだまだ手探りの状態ですが、充実した開業医生活を送るために、これからも今までと同様にもがき続けたいと思っています。